

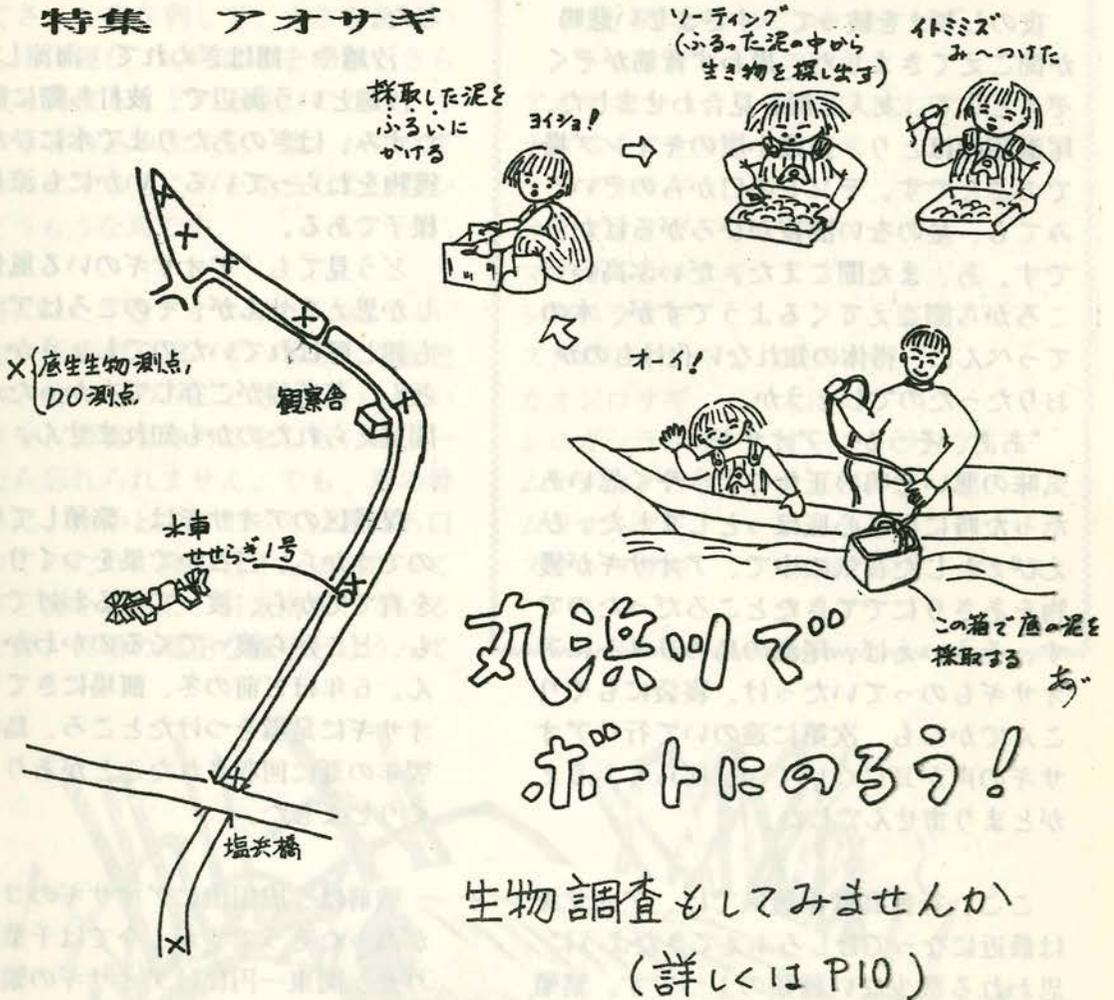
すずがも通信

41

行徳野鳥観察舎友の会会報

1986. 12月

特集 アオサギ



アオサギ

学名 Ardea cinerea 英名 Gray Heron

“ギャアアーッ”

夜のしじまを破って、すさまじい悲鳴が聞こえてきました。思わず背筋がぞくぞくとして、友人と顔を見合わせました。尾瀬沼のほとり、長蔵小屋のキャンプ場でのことです。テントの口からのぞいてみても、星のない闇夜がひろがるばかりです。あ、また聞こえた。だいぶ高いところから聞こえてくるようですが、木のてっぺんに、得体の知れない化けものがおりたったのでしょうか。

“ああ、そうか、アオサギ!”

気味の悪い悲鳴の正体によく思いあたった時には、心底ほっとしました。ひえびえとした夜気の中で、アオサギが獲物をあさりにでてきたところだったので。そういえば、尾瀬の鳥のリストにアオサギもものっていたっけ。寝袋にもぐりこんでからも、次第に遠のいて行くアオサギの声が耳について、しばらくふるえがとまりませんでした。

ここ、行徳鳥獣保護区では、アオサギは最近になってむしろふえてきたように思われる数少ない種類の1つです。繁殖はしていないので、4月から7月ごろまでは多くても4、5羽しか見られませんが、8月に入ると急にふえ、10月ごろまでは、数十羽の群れも珍しくありません。越冬するものも、30羽かそれ以上になりました。10年前は10羽もまると、ずいぶん多く見えたものですが。

アオサギは、保護区の鳥の中ではカワウと並んで最大級のもので、翼をひろげると2m近くになります。どなたでも、初めて見た時には鶴と思われるほど。

“奥の細道”にも、こんな句がありました。

汐越や 鶴はぎぬれて 海涼し

汐越という海辺で、波打ち際に鶴がたずみ、はぎのあたりまで水にひたして獲物をねらっている。いかにも涼しげな様子である。

どう見ても“アオサギのいる風景”としか思えませんが、そのころはアオサギも鶴と呼ばれていたのでしょうか。それとも、芭蕉翁がご存じでなかったか、見間違えられたのかも知れません。

保護区のアオサギは、繁殖していないのですから、どこかで巣をつくり、ひなを育ててから、渡ってくるわけです。でも、どこから渡ってくるのかわかりません。6年ほど前の冬、餌場にきていたアオサギに足環をつけたところ、島根県で翌年の夏に回収されたことがあり、びっくりしました。

戦前は、成田山にアオサギのコロニーがあったそうですが、今では千葉県ばかりか、関東一円にはアオサギの繁殖地はありません。それでも、この10年ほどの間に、保護区だけでなく手賀沼や谷津干潟などでもアオサギの数はふえたと思われれます。白鷺類が減っているのにくらべると、不思議なほどです。もしかすると、日本産でなく、大陸から渡ってきているのでしょうか。



アオサギは、他のサギより体が大きいので、獲物も大物をねらいます。30cmくらいの魚でも、なんとか丸呑みにしてしまいます。ボラの類やハゼなどをとるところがよく見られますが、鋭いくちばしでぐさっと突き刺して、大きな魚はいったん岸に運び、くちばしをぬき、さらに何度も何度もとどめをさしてから、ぐっぐつと呑み込みます。一度、ハマシギを丸呑みにするところを見ました。なかなかどうもうな鳥です。

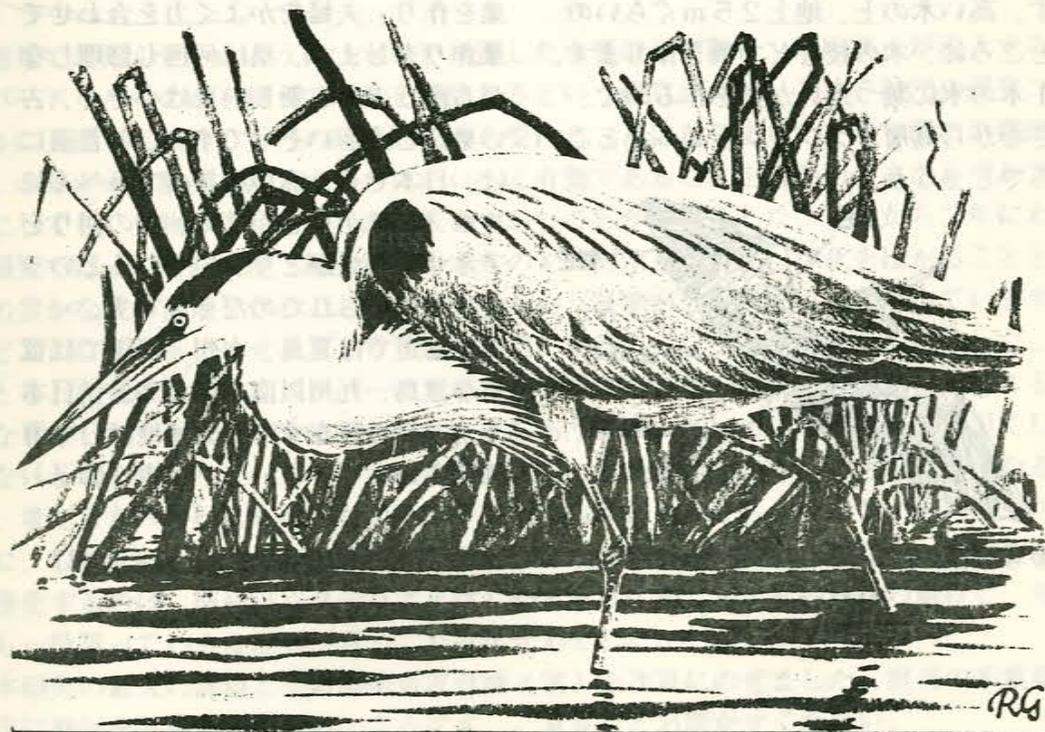
水辺にたたずむアオサギのうつくしい姿。白、灰青色、黒のすっきりした配色といい、飾り毛のみごとさといい、鋭い目つきや、優雅な身のこなしといい、一度見たら忘れられません。でも、夏の暑い盛りに、かかとですわってはあはあ口をあけていたり、強い日ざしに向かってだらりと翼をたらし、日光浴をしている様子など、日頃の端正な様子とはうって

変わった素顔もあるのです。そんなとぼけたところが、“アオサギ 大好き”の理由かも知れません。(蓮尾 純子)

世界のアオサギ

Ardea属のサギ

アオサギ	全北区およびアフリカ
ナンベアオサギ	中南米
オニアオサギ	インド、アフリカ
オオアオサギ	南北アメリカ
マダガスカルサギ	アフリカ
シロハラサギ	インド、東南アジア
ズグロアオサギ	アフリカ
カオジロサギ	大洋州
シロガシラサギ	オーストラリア
ムナジロクロサギ	大洋州
ムラサキサギ	ユーラシア、アフリカ
スマトラサギ	東南アジア、オーストラリア



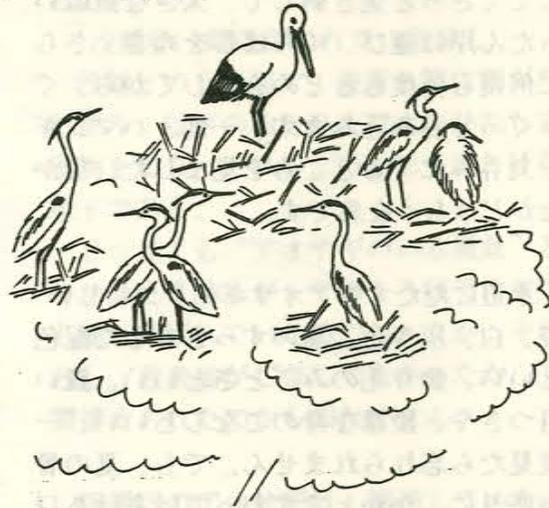
アオサギ ロバート・ギルモア画 (グリーン・キングカサトリ)

☆アオサギは魚が大好き

アオサギのえさは場所や季節によって異なりますが、保護区では魚をとることが多いようです。小魚が主ですが30cm近くもある大きな魚をとらえて四苦八苦しているのをみかけたこともあります。水田地帯ではカエルなどの両生類をとり、ネズミ・モグラ・ヘビトカゲ・昆虫なども食べています。カニを食べることも、また、他の鳥のヒナや弱った小鳥を食べることもあり、保護区でも弱ったハマシギが犠牲になったことがあります。ペレットを形成するために草を食べることもあるそうです。

えさをとるのは明け方か夕方。水際でじっと静止して、魚を狙っている姿を見たことはありませんか？

成鳥が一日に食べるえさは330gから500g。大きめのアジにしたなら、3-4匹といったところですが、けっこう多いですね。



こんな光景はもう見られませんが……

☆アオサギは高層マンション族(?)

アオサギはコロニーで集団営巣します。高い木の上、地上25mぐらいのところに、木の枝などで巣を作ります。1本の木に数つがい巣を作るので、さながら高層マンションといったところでしょうか。

雄が巣材を運び、雌がそれを使って巣を作り、夫婦なかよく力を合わせて巣作りをします。巣は何回も修理しながら使うので、新しい巣は小さく、古い巣ほど大きいそうです。ひと昔前には、日本でも、高い松林のてっぺんにコウノトリが巣をかまえ、その回りをアオサギの巣がとりまいているといった光景が見られたのだそうです。

北海道では夏鳥、本州・四国では留鳥か漂鳥、九州以南では冬鳥と、日本全土で見られますが、繁殖地は日本海側に多いようです。(東 馨子)



参考文献: Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa

よみがえれ 新浜

—水質浄化と水鳥の誘致—



1974年画

前号でお知らせしたように、水車を利用した水質改善実験と、家庭排水が流入する丸浜川バードリバーの水を使って水鳥を誘致するという研究計画が、トヨタ財団の研究コンクールに入選し、500万円の研究助成金を受けることになりました。半年間の予備研究では、水車が水に酸素を混入するのにたいへん有効であることを確かめ、またわずかではあるにしても、生物が復活してきた様子をつかむことができました。これから2年にわたる本研究では、ごく浅い池(酸化池とよぶもの)に汚水をためて、浄化をはかることと、生物の豊かな浅い湿地を作ることが両立するという証明ができればよいと思っています。

どぶ川にまわる“せせらぎ1号”は、本当にいろいろなことを教えてくれました。少なくとも、調査に参加したメンバーの大半は、合成洗剤を使うのにだいたい抵抗を感じるようになりましたし、せっけんに切りかえた人もあります。汚いものをいつきも早く目に触れないところにやりたいというのは人情ですが、自分が出したゴミや汚水がどうなるのかを、考えるきっかけにもなったようです。でも、何ととっても、こんなに汚れきった丸浜川に、こんなにたくさんの生物がいたということはショックでした。私たちが出した汚水を浄化するのは、結局は細菌をはじめとする生物です。その浄化の過程で、魚や水鳥も一役買っているなんて、考えてもみませんでした。

本研究の最大の課題となる湿地造成計画(案)を次頁にのせました。担当の千葉県、市川市に検討をお願いしているところです。ご意見などお聞かせください。

◎ 研究テーマ "よみがえれ新浜—水質浄化と水鳥の誘致"

<本研究の中心課題>

目的:

乾燥が進み、水鳥の棲息、特に、繁殖に適していない、行徳鳥獣保護区本土部分の環境改良実験。

方法:

行徳野鳥観察舎前の水路、愛称、"丸浜バードリバー"の水に、養魚用水車で酸素を吹き込み、浄化能力を高める。

次に、この水をポンプで揚水し、パイプラインで搬送し、水深0.5メートルの溜池にえ数十時間を経過した後、更に浅い酸化池に導く。

この様に、栄養の豊かな水を利用して、湿地の造成を図るとともに、プランクトン→魚類→鳥類の増殖と水の浄化を同時に達成するのが本計画の骨子である。

<具体策>

既存の淡水池北側に高さ1メートル程度の堤を築き、堤の内部にも若干の盛り土を行ない、底面に凹凸のある溜め池を造成する。

この造成に必要な土砂は、溜め池周辺を0.5~1メートル程度浅く掘って賄う。

そして、掘り込んだ窪地には溜め池から水を導き、浅い池や湿地として水質の浄化と水鳥の誘致を図る。

更に予算と関係機関との調整が可能ならば、現在の観察ルートの外側に、幅2メートル、深さ0.5~1メートルの水路を掘り、既存の淡水池とつながる様にする。

<設置するもの>

1. 養魚用水車 1基(電動) 既存のものと同型で出力は2倍
2. 揚水ポンプ 1基(電動) 毎時10~20立方メートル揚水可能なもの
3. 導水パイプ 揚水ポンプと溜め池をつなぐため、300~400メートル必要
4. 溜め池(堤造成) 80×50メートル、通常水深は約0.5メートル
5. 酸化池 溜め池造成時の土砂採取跡、通常水深は約0.5メートル
6. 水路(可能ならば) 観察ルート沿いに掘削、幅2メートル、水深0.5~1メートル

上記の様な考えで本土内改良基本計画案を作成しました。

ご検討の上、御指導のほど宜しくお願い致します。

☆☆☆冬休み特別行事☆☆☆
☆クリスマス茶話会 12月25日(木)

集合: 野鳥観察舎 午後5時

解散: " 午後7時頃

担当: 東 馨子、鈴木裕子

会費: 300円(ケーキ、飲み物代)

冬休みのお楽しみ、クリスマス会。プレゼントの交換をしますので、300円程度のプレゼントを1人1点、用意してきて下さい。必ず予約をお願いします。

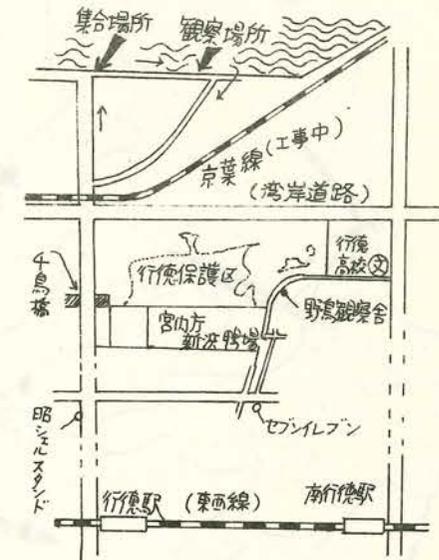
☆初日の出とスズガモの帰還を見る会 1月1日(木・祝)

集合: 行徳塩浜海岸 午前5時50分

解散: 野鳥観察舎 午前8時頃

東西線行徳駅下車、駅前の大通りをまっすぐ南へ徒歩約35分で海岸へ出ます。車でおいでの方は湾岸道路千鳥町の交差点を海の方へ折れ、京葉線に沿ってすぐ右へ行くと、つきあたりが海岸です。

頭上を飛ぶスズガモの群れ、海に上る壮麗な初日の出。両方をたっぷりと堪能できるとよいですね。かなりの寒さです。防寒の用意を念入りに。



☆ニューイヤーカウント 1月4日(日)

集合: 東西線行徳駅前 午前10時

解散: 野鳥観察舎 午後3時頃

持物: 昼食、飲物、バス代、防寒具

コースは定例新浜観察会と同じですが、ひと味違うのは一羽一羽、鳥の数を数えながらいくこと。新しい年への思いをこめて、一羽一羽、確かめながら歩いてみましょう。

☆水鳥カウント 1月15日(木・祝)

担当: 東 良一

保護区、妙典、江戸川放水路、原木、塩浜海岸で冬鳥の数を数えます。むずかしいことはありませんので、参加御希望の方は東まで御連絡を。

事務局だより

秋はお祭の季節。友の会もいくつかのイベント参加（市川の実研究会と協同）で忙しくすごしました。会報の発行日の関係で、お知らせできないものがあつたことをお許しください。

10月19日は“三番瀬まつり”。船橋漁主主催で、船橋漁港を中心として行なわれました。朝6時からの“1日漁師体験”から夕方まで参加していた中・高生諸君は、100円ずつ出し合つて大きな大きなひとかかえもあるガラスビンを買つてくれました。“野鳥保護募金ビン”だそうです。友の会はガレージセールに参加し、マスコットの実演販売や、じゃぼん玉が好評でした。

11月24日は、西友ストアとリサイクルセンターが主催するフリーマーケット（行徳中央公園）に参加するはず。底びき網の“中島丸”から展示用の生きた

魚をわけていただき、せっけん水を容器に詰め、と大さわざで準備をしていたのですが、まず、22日に印刷予定のチラシが、機械の故障でできず、23日には予定していた海からの写真撮影が出港遅れでできず、三度目の正直で、しっかり雨天順延になりました。30日にがんばります。28～30日には西友ストアのフリーホールで“もっとよく知ろう 行徳の海”展。

“よみがえれ新浜”計画の方は、ようやく簡易測量を終え、計画書をまとめてお役所に提出したところ。スムーズに許可が出るとよいのですが、第4日曜の調査もだいたい慣れてきて、仕事が早くなりました。ボートに乗れる時もあります。ぜひどうぞ。できれば年内にも、“せせらぎ2号”を入れたいと思っています。

毎月第2日曜夕方は定例会。慢性の手足不足ですので、ひやかし大歓迎。

水車よ まわれ

“死の川が水車でよみがえつた”……うっそー、というより、ちょっとオーバーじゃないかというような表題で、“春の小川作戦”がずいぶん新聞等にとりあげられました。これは、私たちも意外なのですが、去年はほとんどいかなかったはずのカダヤシ（よくメダカと間違われる小魚。タップミノーと同じ）が、今、いっぱいいます。サギがせっせと食べているところが見られます。水車だけのためではないのかも知れませんが、どぶ川の様子去年と少しかわつたようです。掲載された新聞は朝日、毎日、読売の各紙のほか、共同通信社の記事がジャパントイムズをはじめ、あちこちの地方紙に出ました。

そのおかげで、各地からの問い合わせや見学が相次いでいます。私たちは何しろ水質調査にも、汚水処理にもドしろとなので、専門の方からの問い合わせにじゅうぶんなお役にたてるのかどうか、よくわからないのですが、水中の酸素をふやす効果だけは確実ですし、酸素をふやして悪いはずがないということも確かですので、胸をはって調査報告をお渡ししています。もしかすると、あちこちのどぶ川で、水車がまわりはじめるかも。

こんなところから、ご連絡をうけました。

千葉県行政監察庁 長崎市議会 愛媛県北宇和郡吉田町役場建設課 大阪府生活環境部公害室水質課 小平市都市計画部公園緑地課 群馬県館林土木事務所 高知県公害課 江東区土木部河川公園課 草加市企画財政部企画調整課 佐原市水道事業部長 足立区土木部計画調整課 北海道庁

このほか、デュッセルドルフ、韓国からも問い合わせがありました。

鳥の国から

行徳野鳥観察舎ニュース 蓮尾純子

1日ごとにニセアカシアの葉が散つて見通しがよくなつてきました。きびしいこがらしはまだあまり吹かず、暖かい小春びよりが続いています。鳥たちはすっかり冬のメンバーにかわりました。それでも、つい最近までヒヨドリ移動が見られ、11月20日には国府台病院で保護されたヨタカが入院しました。気候が暖かいために、秋の渡りが長びいているような気がします。

スズガモは、10月中にはやばやと3万羽をこえました。水面全体が黒々と大群で埋めつくされる見事さは、何度見ても見あきません。いつまでこうした光景が見られるだろうかという不安があるこのごろは、感動もひとしお強いのです。スズガモ君、いつまでも入つてきてくれ、と手を合わせたくなります。

今朝のこと、事務室のすぐ外でモズが鳴き出しました。アンテナかと思つて隣隣の屋根を見ても、姿が見えません。ふと横を見ると、壁にはわせた網に雄のモズがとまって、いも虫をくわえたまま、ゆらゆらしながらキイキイと鳴いているところでした。どうも発音が不明瞭だった理由がわかりました。私たちにのぞかれて心配になつたのか、モズはいも虫を呑み込んでしまい、飛び立ちました。



観察舎年末年始休館のお知らせ

野鳥観察舎は12月28日（日）から1月3日（土）まで休館となります。

11月6日から、丸浜川のしゅんせつ工事のクレーンショベルが動きはじめました。工事区間は延長320m、観察舎がまん中にあたります。クレーンのバケットがUFO島のニセアカシア林のかげになっている間は、スズガモの大群は割合落ちついていました。観察舎のまん前にさしかかると、さすがに姿を消しましたが、23日には5万羽前後がほぼ1日中見られました。これからあとは、クレーンが水面から次第に遠ざかるので、何とか冬中大群が入ってくれるのではないかと期待しています。ただし、曇つた日には万をこす大群は見られていません。

カモメたちはあまり工事を気にしていないようで、放し飼いのウミネコなどはショベルですくつたあとを、わざわざのぞきに行つたりします。見ているとあぶなっかしくてひやひやしました。観察舎の窓のすぐ前で、ばかでかいバケットがさかんに往復して泥をしゃく、クレーン越しにカモメの群れが護岸堤でくつろいでいるというながめは、ちょっと想像しにくいものです。

しゅんせつ工事が終わるまであと半月あまり。ご迷惑をおかけしますけれど、どうぞよろしく。

セイタカシギ29羽（10月～11月9日）。18日にはミサゴ1、チュウヒ3、ハヤブサ1が同時に出現。10月5日にはミヤマホオジロ1（初記録）。あまり変わったこともないようですが、夏枯れの時期にくらべるとやっぱりにぎやかです。

☆ 丸浜バードリバーで舟にのろう ☆

きみも調査員になれる！！

12月28日(日)、1月25日(日)

集合：野鳥観察舎 午前10時

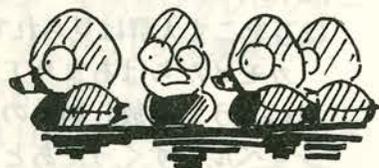
解散： 〃 午後3時頃

担当：東 良一、矢野耕一



丸浜川でボートにのってみませんか？定員は2名だけなので、人数によって交替制になります。川底の土を採取して中にいる生物をさがす生物調査もおもしろいですよ。水車のおかげで少しずつ生物が増えています。冬休みの自由研究にいかがでしょう。

ジュニア友の会をはじめませんか



若本 康平

そこで思いついたのが、“ジュニア友の会”です。とりあえず、行徳野鳥観察舎友の会の中のグループとして活動してみたらどうかと思っています。

会の目標は、「鳥を通じて友達をふやそう」ということを第一にしたいと思います。ぼくたちは、だいたいだれかしらが日曜になると観察舎にきていますが、他の人にも呼びかけようということになりました。

活動としては、できれば毎月か、2か月に1回ぐらい一緒に鳥を見に出かけたり、ミーティングをしたり、たまにはお茶の会なども開いて、コミュニケーションの場を作りたいと考えています。

以上のことはぼくたちの勝手な意見ですが、一緒にやってみたいと思われた方は、ぼくのところにご連絡ください。

ぼくが、行徳野鳥観察舎に通いだしたのは、小学校5年の冬でした。

行徳にひっこしたばかりのとき、ふと思いついたのがバードウォッチングです。最初に観察舎に来たときは、鳥の種類など全然わかりませんでした。1、2か月通っただけで、20種以上は見分けられるようになりました。そのうちに、友達も何人もできました。市川西高校1年の坂口敦、鈴木博之、塩浜中学1年の角隆博、東海大浦安高校1年の川上秀明などです。

今年は、このメンバーで、高尾山、妙義山、日光などに出かけました。“三番瀬まつり”の手伝いもさせてもらいました。そのうちに、もっと仲間がふえるといいなと思うようになりました。



行事案内

誰でも自由に参加できます。参加費無料。

☆定例新浜探鳥会(毎月第2日曜日) 12月14日、1月11日

集合：東西線行徳駅前 午前10時

解散：行徳野鳥観察舎 午後3時頃

担当：東 良一

持物：昼食、飲物、バス代(大人190円、子供100円)、防寒具

埋立工事が進み、妙典では最後のレンコンの収穫が行われています。枯れたアシ原の底でオオジュリンが甘い声で鳴き、上空をサギが舞い、カモが飛び……昔の行徳の面影を残していた妙典・蓮田ともこの冬限りでお別れです。江戸川土手で昼食。午後からバスで観察舎へ向かいます。防寒の用意をしっかりとってきて下さい。

☆定例園内観察会(毎月第1・3日曜日) 12月7日・21日、1月4日・18日

集合：行徳野鳥観察舎前 午後1時半

解散： 〃 午後4時頃

担当：観察舎 蓮尾、協賛 友の会

水面にはカモが群れ、草原にはオオジュリン、ツグミ、アオジなどの小鳥が身をひそめ、冬は保護区が一番鳥でにぎわう季節です。こたつにもぐりこんでばかりいなくて外を歩きましょう。ただし、身じたくはしっかりと。

☆夕暮れ観察会

1月25日(日)

集合：行徳野鳥観察舎 午後4時半

解散： 〃 午後6時頃

担当：観察舎 蓮尾

スズガモの数が多ければ、夕方、群れをなして行徳沖へえさを取りに出かけるスズガモの飛びたちを観察できるかもしれません。詳しくは観察舎まで。



☆丸浜バードリバーを調べよう(毎月第4日曜日) 12月28日、1月25日

集合：行徳野鳥観察舎 午前10時

解散： 〃 午後3時頃

担当：東 良一、矢野耕一

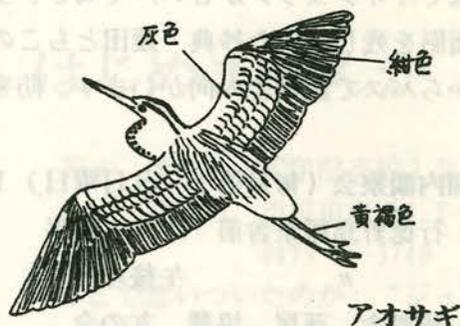
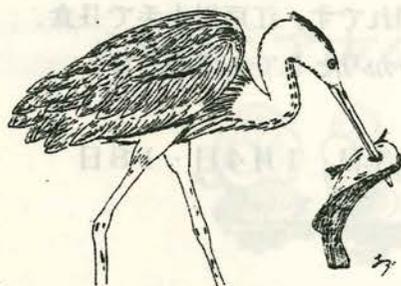
持物：長ぐつ、タオル、ビニール手袋、昼食

トヨタ財団研究コンクール本研究に入選した「よみがえれ新浜」研究もいよいよこれからが本番。ただ今、調査員募集中です



「さようなら、妙典・ハス田」

市街化区域への編入の決まった妙典のハス田では、埋立工事が進んでいます。表情豊かに四季折々の自然を私たちに伝えてくれたハス田ともこの冬限りでお別れです。せめて文字の上だけでも、そんなハス田の姿を残したい……そこで次号で妙典・ハス田の特集を組みたいと思います。ハス田で見たあんな鳥、こんな鳥、その他、何でもけっこうですので、ハス田の思い出をお寄せ下さい。文章が苦手という方はお電話（東 [REDACTED]、蓮尾 [REDACTED]）でもOK。



— 新 入 会 員 —

[REDACTED]

— 住 所 変 更 —

[REDACTED]

編集後記

今年はまだ蚊が活躍しています。こたつやストーブと蚊取線香の共存なんて、信じられます？でも今日は本格的なこがらし、寒かった！工事のため前の竹やぶがなくなって、戸当たりが強い割に、やたら明るい日々をすごしています。（純）

友の会の86年4大ニュース：1. 三月 「よみがえれ 新浜」発行 2. 四月 水車“せせらぎ1号”設置 3. 十月 トヨタ財団研究コンクール本研究に入選 4. 四月 同コンクール予備研究に入選 気がつくともう師走。本当に忙しい年でした。みなさまどうぞよいお年を。（馨）

すずがも通信 No. 41

1986年12月1日発行

発行所 行徳野鳥観察舎友の会

年会費 一般1000円、ジュニア 500円

発行人 東 良一

賛助2000円以上

事務局 [REDACTED]

編集 蓮尾純子、東 馨子

郵便振替 [REDACTED]

行徳野鳥観察舎 [REDACTED]